

地 域 再 生 計 画

1. 地域再生計画の名称

対馬赤ムツ漁水揚・給餌連携計画

2. 地域再生計画の作成主体の名称

長崎県、対馬市

3. 地域再生計画の区域

長崎県対馬市及び平戸市の区域の一部（比田勝港、佐須奈港、鹿見港、小茂田港、巖原港、田平港、久根浜漁港、小鹿漁港、鴨居瀬漁港、越高漁港）

4. 地域再生計画の目標

4-1 地域の現況

対馬市は、日本海の西に浮かび、北は朝鮮海洋を隔てて朝鮮半島に対し、南は対馬海峡を隔てて壱岐島、九州本土に面している。南北約 82km、東西約 18km の細長い島である。

対馬から博多まで 147km あるのに対し釜山までは 49.5km と、日本の中で朝鮮半島に最も近いという地理的条件から、古くから大陸からの石器文化、青銅器文化、稲作、仏教、漢字などを伝えるなど、日本の玄関口として栄えてきた。

また、朝鮮半島との間では、貿易などの交流が盛んに行われた歴史があり、その交流は「巖原港まつり対馬アリラン祭」や「対馬ちんぐ音楽祭」、「国境マラソン in 対馬」などのイベントが行われているほか、2017 年には「朝鮮通信使に関する記録」が世界記憶遺産に登録されており、現在も対馬と釜山の間には定期航路が就航、年間 40 万人（2018 年実績）の韓国人が訪れるなど、現在でも活発な交流が行われている。

平成 16 年 3 月 1 日には地方分権の進展や少子・高齢化といった社会環境の変化に加え、厳しい地方財政などを背景に、当時の 6 町（巖原町、美津島町、豊玉町、峰町、上県町、上対馬町）が合併し、対馬市が誕生した。

平戸市は九州本土の最西端、平戸瀬戸を隔てて南北に細長く横たわっている平戸島と、その周辺に点在する大小およそ 40 の島々から構成されている。平戸市の面積は 235.63km²あり、北に玄界灘、西には東シナ海を望む日本本土最西端の地である。その多くは平坦地に乏しい起伏の多い地形となっており、海岸線はリアス式海岸で変化に富み、表情豊かな自然景観を形成している。その為、その一部は西海国立公園の指定を受けている。

また、地方分権の進展や少子・高齢化・過疎化といった社会環境の変化に加え、交通環境の改善及び住民のライフスタイルの多様化に伴う生活圏の拡大、さらには厳しい財政などを背景に平成 17 年 10 月、平戸市、田平町、生月町、大島村の 1 市 2 町 1 村による市町村合併を行い、新「平戸市」となった。

比田勝港は、対馬の最北端に位置する長崎県管理の地方港湾で、博多からの定期フェリーが就航するなど上対馬地域の物流の拠点であるとともに、釜山間に国際定期航路が就航するなど、対馬の玄関口としての役割を果たしている。水産物においては、島内水産物の移出、島外からの赤ムツの餌となるサバ等の移入などの物流基地として機能しており、また、周辺は好漁場に恵まれ、外来漁船の利用も多く水産基地としての役割も果たしている。

佐須奈港は、対馬西海岸の北部に位置する長崎県管理の地方港湾で、古くは朝鮮との定期航路が開設されていたことから、長崎税関出張所の支所が開設されるなど重要な役割を果たしていた。現在は建設資材（砂）の取扱バースを有し、上対馬の地域経済の下支えとしての役割を果たしている一方、天然の良港で港の前面海域の豊富な水産資源を有していることから、赤ムツ漁を主とした沿岸漁業基地として地域経済を支える役割を果たしている。

鹿見港は、対馬西海岸の北部に位置する長崎県管理の地方港湾で、港口は北を向き朝鮮海峡に面しており、港口の北側には伊奈崎が突出し、港の背後は山岳が連なって三面を囲まれている。古くは朝鮮海峡の潮流風向が極めて好条件であり、天然の良港であるため朝鮮との貿易が行われ、税関監視所が開設されるなど貿易港として賑わいを見せていた。現在は、周辺海域の豊富な水産資源を有していることから、赤ムツ漁を主とした沿岸漁業の基地として地域経済を支える役割を果たしている。

小茂田港は、対馬西海岸の中央部唯一の長崎県管理の地方港湾で、文永の役には元寇による元軍が上陸した港である。また、古くは背後地に鉾山を有していたため、鉛・亜鉛等の主要鉾石の搬出港として重要な役割を果たしていた。現在は、港の前面海域に好漁場を有していることから、赤ムツ漁を主とした沿岸漁業基地として地域経済を支える役割を果たしている。

厳原港は、対馬中東部に位置する長崎県管理の重要港湾で、古来より中国大陸・朝鮮との交易港として知られ、現在は、博多航路のフェリーやジェットフォイル、釜山航路の高速船等が就航しており、国内外のゲートウェイ機能を有する対馬の重要な拠点港である。また、対馬島で水揚げされた水産物の島外への出荷や島外からの移入などの物流機能も有している、対馬島の流通拠点であるとともに、水産物の生産拠点としての機能も有している。

久根浜漁港は、対馬西海岸南部に位置し、朝鮮海峡に面している長崎県管理の第1種漁港であり、周辺海域に好漁場に恵まれており、主に一本釣りや刺し網が営まれている。なお、小茂田港に隣接する漁港であることから、小茂田港の漁船が当漁港を利用するなど、小茂田港を補完する役割を担っている。

越高漁港は、対馬西海岸北部に位置する対馬市管理の第1種漁港で、周辺海域に好漁場に恵まれ、主に一本釣りが営まれている。なお、当漁港では漁船の休けいをおこない、赤ムツなどの漁獲物は隣接の鹿見港で陸揚げ・出荷するなど両港において施設の機能分担を図っている。

小鹿漁港は、対馬東沿岸の北部に位置する長崎県管理の第2種漁港で、周辺には好漁場を有しており、赤ムツの餌となるサバ等の陸揚げ・出荷を行っている。

鴨居瀬漁港は、対馬の東沿岸中央部に位置する長崎県管理の第2種漁港で、多くの入り江を有するリアス式海岸で形成され、近隣周辺海域の好漁場を利用し、赤ムツの餌となるサバ等を捕獲する定置網等が営まれ、生産基地の拠点として重要な役割を果たしている。

田平港は、本県北西端に位置し、平戸瀬戸を隔てて平戸港と相対している長崎県管理の地方港湾で昭和52年の平戸大橋が架橋するまで平戸島の玄関口としての役割を果たし、現在は、近離島（的山大島）と平戸港の寄港地としての役割を果たしているとともに平戸瀬戸及び周辺海域の豊富な水産資源を背景として漁業基地として機能しており特に赤ムツの餌となるサバ等を捕獲する定置網漁が盛んである。

4-2 地域の課題

対馬地域では、平成22年の人口34千人が平成52年には18千人と53%まで減少すると推計されており、人口減少対策と合わせて高齢化対策が急務となっている。また、特定有人国境離島地域である対馬の地域社会の維持を図ることが緊急の課題となっている中、令和元年7月以降、韓国人観光客が激減し観光業が厳しい状況に置かれている。このような中、対馬の経済を支える基幹産業の水産業の活性化により、地域産業を活性化させ経済を支えていくことが求められているが、対馬の水産業においては、担い手不足や高齢化進行のほか、漁場環境の変化に伴う水揚げの減少や経済のデフレ傾向に伴う長期の魚価の低迷、港湾漁港施設の老朽化や機能不足による出漁機会の減少が課題となっている。

平戸地域では、人口減少と合わせて高齢化が進んでおり、高齢化社会を見据えた社会基盤の整備が必要となっているが、田平港では、対馬地域への赤ムツの餌となる漁獲物の水揚げ時において、高齢化する漁業者の就労環境の改

善や安全性の確保が課題となっている。

4-3 計画の目標

こうした状況を踏まえ、対馬の経済を支える水産業を中心として地域産業を活性化することとしており、近年全国的に知名度が高くなり超高級魚として1匹1万円で取引されることもある赤ムツを対馬島内でブランド化し全国へ出荷することで対馬漁業者の所得金額向上を目指している。対馬地域においては、比田勝港、佐須奈港、鹿見港、小茂田港、巖原港、久根浜漁港・越高漁港、小鹿漁港及び鴨居瀬漁港において、赤ムツ漁の生産基地の陸揚げ・準備時における高齢者の作業軽労化や効率化、出漁機会の増加及び就労環境の改善・安全性の向上を図る施設を総合的に整備することで、魚価が高い赤ムツの漁獲量及び漁獲金額の向上を図る。平戸地域においては、陸揚げ作業の効率化・安全性向上を図る施設を整備することで、対馬地域へ供給する赤ムツのエサとなるサバの安定的な供給を図る。以上のように、高齢化する漁業者の就労環境の改善や安定した漁業活動をおこなうための施設の機能強化を港湾・漁港一体的に整備するとともに、水産振興イベント等のソフト事業を併せて実施することにより、赤ムツの漁獲量の増加及び漁業者の所得向上を通じた水産業の振興を図り、併せて将来の担い手不足の解消を図る。

(目標1) 対馬地区の漁業所得の向上

4,924千円/経営体(H30) → 5,416千円/経営体(R8)

(目標2) 対馬赤ムツ漁獲金額の向上

305百万円/年(H30) → 366百万円/年(R8)

(目標3) 田平地区の漁業所得の向上

5,842千円/経営体(H30) → 6,400千円/経営体(R8)

5. 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

比田勝港は、係留施設の不足を解消するため、物揚場及び物揚場へのアクセスとなる道路を整備する。

佐須奈港は、準備作業の安全性及び作業効率向上のため、浮体式係船岸を整備する。併せて、陸揚げ施設から国道(382号)までルートが臨港道路のみであるが、老朽化し陥没等が発生しているため、アクセス道路の安全性向上による流通機能の確保のため道路の改良を行う。

鹿見港は、既存船揚場の低能力による漁業者の他港移動コストの削減やこれらの期間の出漁機会の減少を回避するため、新たな船揚場を整備する。

小茂田港は、準備・陸揚げ・休けい作業の安全性及び作業効率の向上並び

に出漁機会の増加を確保するため、浮体式係船岸の整備並びに防波堤の改良（防風フェンスの新設）を行う。

巖原港は、陸揚げ作業の安全性及び作業効率の向上のため、防波堤、浮棧橋を整備する。併せて、島外への流通拠点としての機能を確保するため、道路改良、橋梁改良を行い安全性の確保による輸送機能の強化を図る。

久根浜漁港は、準備作業の安全性向上を図るため、車止めの整備を行う。

越高漁港は、準備作業の安全性・作業効率向上のため、浮体式係船岸の整備を行う。

小鹿漁港は、準備・輸送作業の安全性向上を図るため、車止めの整備を行う。

鴨居瀬漁港は、準備・輸送作業の安全性向上を図るため、車止めの整備を行う。

田平港では、陸揚げ作業の効率化及び安全性向上化を図るため、浮棧橋の改良を行う。併せて、道路の改良を行い、輸送作業の安全性向上を図る。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

(1) 地方創生港整備推進交付金【A3010】

【施設の種類の種類、事業主体】

- ・港湾施設（比田勝港、佐須奈港、鹿見港、小茂田港、巖原港、田平港）長崎県
- ・漁港施設（久根浜漁港、小鹿漁港、鴨居瀬漁港）長崎県（越高漁港）対馬市

【事業期間】

- ・港湾施設 令和2年度～令和8年度
- ・漁港施設 令和3年度～令和5年度

【整備量】

- ・港湾施設 外郭施設、係留施設、臨港交通施設
- ・漁港施設 係留施設、

【事業費】

- ・総事業費 2,965,000 千円
- ・港湾施設 2,817,000 千円（うち交付金 1,574,500 千円）
- ・漁港施設 148,000 千円（うち交付金 88,800 千円）

【事業の実施状況に関する客観的な指標及び評価の方法】

毎年度終了後に対馬市水産課による統計データを集計し、速やかに状況を把握する。

(平成・令和／年度)	基準年度 H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
指標1 漁獲量の増加 対馬地区漁獲量の増加	338トン	347トン	356トン	365トン	375トン	384トン	394トン	405トン
(平成・令和／年度)	基準年度 H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
指標2 漁獲量の増加 田平地区漁獲量の増加	4,894トン	4,963トン	5,032トン	5,102トン	5,171トン	5,241トン	5,310トン	5,380トン

毎年度終了後に平戸市水産課による統計データを集計し、速やかに状況を把握する。

【事業が先導的なものであると認められる理由】

港湾と漁港を一体的に整備することによって、個別に整備するのに比べて、効率的な整備が可能となり、対馬地域においては、準備・陸揚作業の安全性向上、軽労化といった就労環境を実現し、平戸地域においては、定置網漁が盛んに行われる田平港で陸揚作業等の安全性の向上を図ることで、それぞれ地域の水産物の消費拡大・販売促進を図る。以上のことから港湾及び漁港を一体的に整備することにより、地域再生の目標達成に資することが期待できる点で先導的な事業となっている。

港湾施設（比田勝港、佐須奈港、鹿見港、小茂田港、巖原港、田平港）、漁港施設（久根浜漁港、小鹿漁港、鴨居瀬漁港）は、長崎県国土強靱化地域計画に基づき実施するものである。

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

(1) 特定有人国境離島地域社会維持推進交付金事業（輸送コスト支援）

内 容 基幹産業である農林水産業など地場産業の発展を阻害する要因となっている条件不利益を緩和するとともに、これら産業の振興を図り雇用を拡充する観点から、農水産品、戦略参品の移出及び当該参品の生産又は移出に必要な原材料等の移入に係る輸送コストの低廉化を支援する。

事業主体 対馬市

(2) 浜の魅力発信、漁業就業促進総合支援事業

内 容 地域への定住が確実に漁業の担い手としての活躍ができる者を公募、選考し、新規就業者の確保として新規就業者の地域の受け皿づくり、研修期間中の生活費の支援、リース漁船取得の支援を行い、一定期間サポートを行う。

事業主体 対馬市

(3) 新水産業経営力強化事業

内 容 水産業所得上場支援事業の経営指導により経営計画を策定した漁業者が行う機器整備や、漁協や市町等が行う漁村の生産基盤整備等に対して支援を行う。

事業主体 長崎県

(4) 漁場環境改善事業

内 容 磯焼け対策、藻場造成、資源管理等、持続可能な漁場環境を保全することで、漁業者の安定した所得を確保する。

事業主体 対馬市

(5) 離島漁業再生支援事業

内 容 漁業再生活動に取り組む離島の漁業集落の取組、離島の新規漁業就業者に対し漁船・漁具等をリースする取組、雇用を創出するための取組を支援し、離島漁業の維持・再生を図る。

事業主体 漁業集落

(6) 漁協による対馬「赤ムツ」ブランド化の取組

内 容 上県町漁業協同組合による「紅瞳（べにひとみ）」や厳原町漁業協同組合による「アカムツ」としてブランド化の取り組みをおこない、高付加価値化し全国に出荷している。

事業主体 上県町漁業協同組合、厳原町漁業協同組合

(7) おっどん祭り

内 容 毎年8月のお盆の頃に開催され、魚つかみ取り大会のほか、小中学生を対象にしたエア遊具を含む障害物レースが開催されるなど毎年、上対馬地域の一大イベントとなっている。

事業主体：対馬市商工会青年部

(8) 浜の魅力発信、漁業就業促進総合支援事業

内 容 関係機関で組織する平戸市漁業担い手確保支援協議会で承認された新規漁業者（Uターン者、漁家子弟）の定住促進を図るため生活費等の支援を実施する。

事業主体 平戸市

（９）雇用型漁業育成支援事業

内 容 定置網漁業について、生産設備の改善と加工・流通・観光等を一体的に取り組む優良な経営モデルづくり

事業主体 個人経営体

（１０）平戸瀬戸市場 新米・新あご祭り

内 容 平戸市の主力特産品である「あご（トビウオ）」や同時期に収穫される「新米」（世界文化遺産構成地の春日集落で作られた棚田米等）をメインとする平戸産品をお買い求めやすく販売するイベント。平戸の玄関口である平戸瀬戸市場で実施。

事業主体 平戸瀬戸市場協同組合

（１１）平戸特産の水産物による魚まつり

内 容 平戸市で四季折々に水揚げされる代表的な水産物をメインとして、春は「平戸天然ひらめまつり」、秋は「平戸天然あらなべ祭り」「いきつき勇魚（鯨）まつり」などを開催している。

事業主体 平戸観光協会

6. 計画期間

令和2年度～令和8年度（7カ年）

7. 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況に係る評価の手法

4に示す地域再生計画の目標については、計画期間の中間年度及び計画年度終了後に、データの集計を行い、速やかに状況を把握する。定量的な目標に関わる基礎データは、対馬市や平戸市の統計データを用い、中間評価、事後評価の際には、長崎県まち・ひと・しごと創生対策懇話会にて評価を行う。

7-2 目標の達成状況に係る評価の次期及び評価を行う内容

	(基準年度)	(中間年度)	(最終目標)
目標1 対馬市の漁業所得の向上	平成30年度 4,924千円／経営体	令和4年度 5,219千円／経営体	令和8年度 5,416千円／経営体
目標2 対馬地区漁獲金額の向上	平成30年度 305百万円／年	令和4年度 341百万円／年	令和8年度 366百万円／年
目標3 田平地区の漁業所得の向上	平成30年度 5,842千円／経営体	令和4年度 6,716千円／経営体	令和8年度 6,400千円／経営体

(指標とする数値の収集方法)

項目	収集方法
対馬市の漁業所得の向上	対馬市水産課ヒヤリングより
対馬地区漁獲金額の向上	対馬市水産課ヒヤリングより
田平地区の漁業所得の向上	平戸市水産課ヒヤリングより

・ 目標の達成状況以外の評価を行う内容

1. 事業の進捗状況
2. 総合的な評価や今後の方針

7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法

計画終了後、4に示す数値目標に照らし本計画全体の事後評価を行い、ホームページ等で公表する。